

金沢の教員養成課程で学ぶ学生さん 18 人を連れて、「能登の今」を自分たちの目で確かめる巡検に出かけました。写真は、2024 年 1 月の能登半島地震で特に大きな地盤隆起が生じた、輪島市の鹿磯漁港（かいそぎょこう）を見学しているところです。学生さんたちは岸壁を歩きながら、地震前には海面近くにあった施設や、隆起によって大きく姿を変えた港の様子を熱心に観察していました。

この付近では、一度の地震によって最大約 4 メートルもの地盤隆起が生じました。これは日本の有史以来でも最大級の地殻変動とされ、海岸線そのものが沖へ移動するほどの劇的な変化でした。港では海底まで持ち上がったため、それまで船が出入りしていた場所が浅くなったり陸地になったりし、漁港としての機能が一挙に失われました。応急的な施設や復旧工事も進められていますが、地震から約 2 年半が過ぎた現在も、漁港本来の機能の大部分は復旧途上にあります。

報道写真やテレビ、SNS を通して被災地を知ることができますが、実際にその場所に立つことで初めて実感できることがあります。わずかに一度の地震が大地を数メートルも持ち上げ、長年使われてきた港の姿と機能を根本から変えてしまう——その地殻変動のすさまじさと、いったん変わってしまった地形の上で「完全復旧」を目指すことがいかに困難であるかを、学生さんたちも自分の目で見て、肌で感じ取ってくれたと思います。

（2026 年 8 月上旬／石川県輪島市鹿磯漁港）

